

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-197523

(43)公開日 平成11年(1999)7月27日

(51)Int.Cl.⁶

B 02 B
5/02

識別記号

1 0 1
1 0 2

F I

B 02 B
5/02

1 0 1 Z
1 0 2 A

審査請求 未請求 請求項の数1 FD (全3頁)

(21)出願番号

特願平10-21522

(22)出願日

平成10年(1998)1月19日

(71)出願人 000144898

株式会社山本製作所

山形県天童市大字老野森404番地

(72)発明者 山本 翁一

山形県天童市大字老野森404番地 株式会
社山本製作所内

(72)発明者 鈴木 敏彰

山形県天童市大字老野森404番地 株式会
社山本製作所内

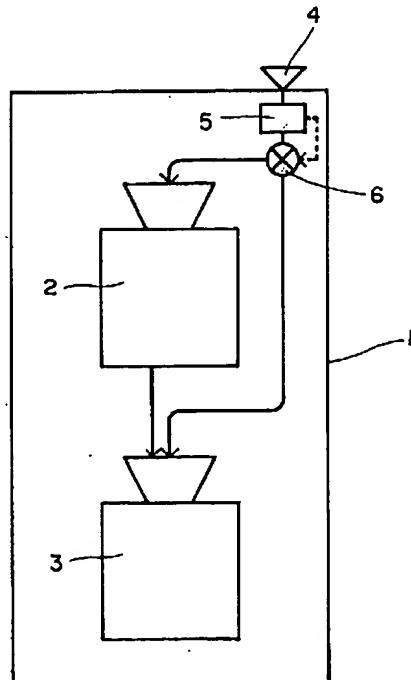
(74)代理人 弁理士 新潟 宏太郎 (外1名)

(54)【発明の名称】 初摺精米装置

(57)【要約】

【目的】 誤操作の防止

【構成】 建物1の所望の位置に投入ホッパー4に投入した穀物が玄米であるか精米であるかを自動的に選別する自動選別センサー5と切替装置6とを設け、前記自動選別センサー5と前記切替装置6とを前記自動選別センサー5が精米と検知したときは前記投入ホッパー4より前記精米装置2に前記自動選別センサー5が玄米と検知したときは前記投入ホッパー4より前記精米装置3に流れるように連結した初摺精米装置。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 建物1内に粉摺装置2と精米装置3を配置し、建物1の所望の位置には投入ホッパー4を設けたものにおいて、前記建物1の所望の位置に該投入ホッパー4に投入した穀物が玄米であるか粉米であるかを自動的に選別する自動選別センサー5と流路の切替装置6とを設け、前記自動選別センサー5と前記切替装置6とを前記自動選別センサー5が粉米と検知したときは前記投入ホッパー4より前記粉摺装置2に前記自動選別センサー5が玄米と検知したときは前記投入ホッパー4より前記精米装置3に流れるように連結した粉摺精米装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、粉摺精米装置に関するものである。

【0002】

【従来技術】従来、建物内に粉摺装置と精米装置を配置し、建物の所望の位置には投入ホッパーを設けたものにおいて、前記建物の所望の位置に該投入ホッパーに投入した穀物が玄米であるか粉米であるかを肉眼で検知して押圧するスイッチと該スイッチの操作で切替る切替装置を設けたものは公知である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】公知のものは、投入ホッパーに投入した穀物が玄米であるか粉米であるかを肉眼で検知して押圧するスイッチと該スイッチの操作で切替る切替装置を設けたものであるから、誤操作することがあり、玄米を再粉摺したり、粉米をいきなり精米することがあった。

【0004】

【発明の目的】誤操作の防止。

【0005】

【課題を解決するための手段】よって、本発明は、建物1内に粉摺装置2と精米装置3を配置し、建物1の所望の位置には投入ホッパー4を設けたものにおいて、前記建物1の所望の位置に該投入ホッパー4に投入した穀物が玄米であるか粉米であるかを自動的に選別する自動選別センサー5と流路の切替装置6とを設け、前記自動選別センサー5と前記切替装置6とを前記自動選別センサー5が粉米と検知したときは前記投入ホッパー4より前記粉摺装置2に前記自動選別センサー5が玄米と検知したときは前記投入ホッパー4より前記精米装置3に流れるように連結した粉摺精米装置としたものである。

【0006】

【実施例】本発明の一実施例の構成を図面により説明すると、1はプレハブのような建物、2は建物1内に取付けられた粉摺装置、3は建物1内に取付けられた精米装置で、建物1の所望の位置には投入ホッパー4が設けられる。投入ホッパー4は建物内に設けられるのが普通である。

【0007】しかして、投入ホッパー4には、玄米を投入するときと、粉米を投入するときがあり、従来公知のものは、利用者が肉眼で玄米であるか粉米であるかを識別して、スイッチを操作して切替るのであるが、錯誤により誤操作することがあり、玄米を粉摺装置に供給して再粉摺したり、粉米をいきなり精米装置に供給して精米することがあった。

【0008】しかるに、本発明は、投入ホッパー4に投入した穀物が玄米であるか粉米であるかを自動的に識別する自動選別センサー5を流路に設け、また、該自動選別センサー5により自動的に切替わる切替装置6をその次に設けて、前記自動選別センサー5と前記切替装置6とを、前記自動選別センサー5が粉米を検知したときは前記投入ホッパー4より前記粉摺装置2に流れるように、前記自動選別センサー5が玄米を検知したときは前記投入ホッパー4より前記精米装置3に流れるように、互いに連結した粉摺精米装置としたものであるから、誤操作を防止する。

【0009】

【作用】次に作用を述べる。利用者は、所有する粉米か玄米のいずれかを、投入ホッパー4に投入すると、自動選別センサー5により自動的に識別し、その信号により切替装置6を切替えて、粉米のときは粉摺装置2に流入されて粉摺し、粉摺装置2により得られた玄米は精米装置3に流入して精米される。

【0010】又、投入ホッパー4に投入されたものが玄米のときは自動選別センサー5で識別され、切替装置6を自動的に切替えて直接精米装置3に流入し、精米される。本発明は、利用者の判断で切替装置6を切替えるのではなく、自動選別センサー5で自動的に識別して切替えるのであるから誤作動がない。

【0011】

【発明の効果】本発明は、建物1内に粉摺装置2と精米装置3を配置し、建物1の所望の位置には投入ホッパー4を設けたものにおいて、前記建物1の所望の位置に該投入ホッパー4に投入した穀物が玄米であるか粉米であるかを自動的に選別する自動選別センサー5と流路の切替装置6とを設け、前記自動選別センサー5と前記切替装置6とを前記自動選別センサー5が粉米と検知したときは前記投入ホッパー4より前記粉摺装置2に前記自動選別センサー5が玄米と検知したときは前記投入ホッパー4より前記精米装置3に流れるように連結した粉摺精米装置としたものであるから、利用者の判断で切替装置6を切替えるのではなく、自動選別センサー5で自動的に識別して切替えるのであるから誤作動がない。

【図面の簡単な説明】

【図1】全体の縦断側面図。

【符号の説明】

1…建物、2…粉摺装置、3…精米装置、4…投入ホッパー、5…自動選別センサー、6…切替装置。

【図1】

